こころとからだに、
おいしいものを。

2026 年 2 月 16 日

各　位

会　　社　　名　ダイドーグループホールディングス株式会社
代表者の役職氏名　代 表 取 締 役 社 長　　髙 松　　富 也
（コード番号：２５９０　東証プライム市場）
問 い 合 わ せ 先　コーポレートコミュニケーション部長　鎌野 公洋
電　話　番　号　06-7166-0077

特別損失（減損損失）の計上および通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2026 年 1 月期（2025 年 1 月 21 日～2026 年 1 月 20 日）において、下記の通り固定資産の減損損失を計上する見込みとなりました。また、最近の業績動向を踏まえ、2025 年 8 月 27 日に公表しました 2026 年 1 月期の通期業績予想について、下記の通り修正しましたので、お知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について（連結）

主力の国内飲料事業において、昨今の原材料価格高騰や消費者の節約志向の高まりにより、自販機チャネルにおける収益性が低下しています。そのような状況の中、当社は、価格優位性のある「ハートプライス」商品ラインアップの展開や不採算自販機の政策的引き上げ等により、その改善に努めてきました。しかしながら、飲料の販売数量の減少やコーヒー豆をはじめとした各種原材料価格の高騰の影響は大きく、今期、国内飲料事業は営業損失となる見込みです。さらに、来期以降もこの厳しい市場環境の継続が見込まれることなどから、当第 4 四半期連結会計期間において、自販機等の事業関連資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、29,826 百万円を減損損失として計上することになりました。引き続き、自販機事業の収益回復に向け取り組んでいく計画であり、その具体的な内容については 2026 年 3 月 4 日に開示予定の 2026 年 1 月期通期決算発表にて、開示予定です。

2. 特別損失の計上について（個別）

国内飲料事業の主要な連結子会社であるダイドードリンコ株式会社において減損損失を計上したことに伴い、当社個別決算において、当社が保有する同社株式について関係会社株式評価損 466 百万円を計上いたします。また、当社から同社への貸付金についても、回収可能性を踏まえて貸倒引当金の計上が必要と判断し、貸倒引当金繰入額 26,169 百万円を計上いたします。

なお、これらの特別損失は、連結決算においては消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

3. 2026年1月期 通期連結業績予想の修正（2025年1月21日～2026年1月20日）

	連結売上高	連結営業利益	連結経常損益	親会社株主に帰属する当期純損益	1株当たり連結当期純損益
前回発表予想（A）	百万円 243,400	百万円 1,800	百万円 △400	百万円 △3,000	円 銭 △94.84
今回発表予想（B）	241,200	4,100	1,400	△30,700	△970.00
増減額（B－A）	△2,200	2,300	1,800	△27,700	
増減率（ % ）	△0.1%	128%	－	－	
（参考）前期連結実績（2025年1月期）	237,189	4,789	3,023	3,804	120.66

（注）IAS第29号「超インフレ経済下における財務報告」に定められる要件に従い、会計上の調整をすることとなります。この調整による影響額として、売上高は28億円増加、営業利益は7億円減少、経常利益は27億円減少、親会社株主に帰属する当期純損益は26億円減少を通期連結業績予想に織りこんでおります。

4. 業績予想修正の理由

国内飲料事業においては、原材料高をはじめとする各種コストが上昇する中、消費者の節約志向は依然として強く、厳しい経営環境が続いています。これに対し、トルコ飲料事業を中心とした海外飲料事業は想定を上回って推移し、国内飲料事業の落ち込みを補ったうえで、さらにグループ全体の営業利益と経常利益について当初予想を上回る水準へと押し上げました。

一方、親会社株主に帰属する当期純利益については、特別損失として上記の減損損失を計上することに伴い、当初予想より下方修正しました。

（注）業績予想につきましては、本資料発表日現在において入手可能な情報および合理的と判断する前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以　上